

演習()

<p>演習名</p>	<p>工業経済学 演習() 担当者 川端 望</p>
<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産システム間の競争・浸透・統合 モジュール・統合・分散 ・ 産業経済研究の報告と討論 	
<p>授業のねらい・内容</p> <p>1 .国・地域をまたがる生産システムのダイナミズムには、ある国・地域における生産システムの導入・形成、発展、再編、高度化という側面と、ある生産システムの国・地域を超えた移転・定着・変容という側面がある。実際には、以下のように両側面が絡み合って現れる。</p> <p>第一に、ある国・地域において性格の異なる複数の生産システムが同時期に導入されることである。ここからシステム間の競争・相互浸透が生じ、さらに一つのシステムの一人勝ちや新システムの生成といったダイナミズムが生じる。</p> <p>第二に、多国籍企業が国・地域にまたがって複数の生産システムを同一企業内に統合しようとすることである。生産システムの多様性を包摂する企業レベルでのダイナミックな戦略のあり方が問われてくる。</p> <p>これらのダイナミズムを、個別事例の集積と総括によって解明し、アジアにおける生産システムの現状と課題、展望を探ろうとするものである。具体的には日本企業の生産システム再編を中心とし、オートパイや金型などにおける中国企業の台頭の中で生じる生産システムの相互浸透、鉄鋼業の海外事業などに見られる統合型管理の意義、半導体における設計・生産のモジュール化の国際的潮流などをとりあげる。</p> <p>2 . 産業経済に関連する研究を行っている受講者自身の研究テーマに即して、研究報告と討論を行う。したがって、受講者は、(1)産業経済に関連する研究テーマを持っていること、(2)担当者を指導教官、あるいは研究過程でのディスカッション相手として希望する者であること、の二つの条件を満たすことが必要である。</p> <p>テキスト発行スケジュールの都合により、年度の前半は2を行い、途中から1を交えて行う。</p>	
<p>テキスト・参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . 坂本清編著『日本企業の生産システム革新(仮題)』ミネルヴァ書房、2004年(近刊)。 2 . 院生が研究報告を行い、他の参加者がコメントする。院生は、研究報告のペーパー・レジюме・資料を3日前までに他の参加者に配布する。 各自の研究テーマと担当教官の問題関心・研究方法との整合性は、ホームページや著作で確認しておくこと。 http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/index.htm 	
<p>成績評価の方法</p> <p>平常の出席・報告・討論による。5月末までに申し出た場合に限り、履修放棄を認める。</p>	
<p>留意事項</p> <p>1 については、数理的手法は用いない。具体的ケースの意味を検証・解釈する議論が中心となる。受講者の言語的制約には配慮するが、原則として多量の和文・英文を読解することが必要である。</p>	